



地域と共に

副校長 青木 直美

先日本校で第1回学校運営協議会が開催されました。学校運営協議会は『学校と地域が連携・協働をして一体となって子供を育てる仕組みであり、学校と目標やビジョンを共有した応援団としての組織』です。さつきが丘小学校では、学校関係者評価委員会に変わり今年度より設置しています。この協議会で学校長より、学校の様子として昨年度の学力学習状況調査の分析説明がありました。その中で、「町の行事に参加していますか」について、本校の児童は「参加している」と回答した児童が16%で市の平均32%よりも低かったことが報告されました。地域の方々には、登下校の見守り、学習ボランティア、おやじの会など様々なところで支援していただいておりますが、児童の側からの地域への関わりが薄いということが改めてわかりました。

「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」これが横浜の教育が目指す人づくりで、横浜教育ビジョン2030にさらに細かく示されています。その中の一つに、

【公】- 公共心と社会参画 □横浜を愛し、地域や社会のために、他者と協働する力。

があります。この力をつけるためには、まず子どもたちが「社会の中の自分、地域の中の自分」を認識することが大切です。小学生にとっての身近な社会とはまず、「家庭」「学校」と「地域」です。家庭の中の自分や学校の中での自分は認識しやすいですが、地域の中の自分は、関わりをもたないとなかなか認識しにくいものです。本校では地域の方々のボランティア活動を通して地域と接する機会がありますが、あくまで学校の中での地域の方々です。地域を肌で感じるには、子どもたちが地域に関わっていくことが大切だと考えます。清掃活動、防犯・防災活動、お祭り、商店街のフェスティバルなど地域には子どもたちが関われるいろいろな行事があります。体験を通して地域と関わることで、子どもたちは地域を肌で感じ、それが地域社会を知る、その一員であることを認識することにつながっていくのだと思います。

主体的に社会に参画し、地域社会の課題を自分のこととして考えたり行動したりできるようになるためにも、積極的に地域に関わってほしいと思います。ぜひご家庭でも積極的参加へのサポートをお願いします。

